

(VI) ひきこもり専門支援センター事業**1 ひきこもり専門支援センター概要**

ひきこもり※状態にある本人及び家族等を支援するとともに、関係機関と連携することにより、ひきこもり状態にある本人の自立を促進し、本人及び家族の福祉の増進を図るため、H28年4月に開所し、同年10月より相談業務を開始した。

※ひきこもりの定義…様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は少なくないことに留意すべきである。(2010年 ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン)

2 業務内容

(1) ひきこもりに関する相談支援

ア 相談支援体制

ひきこもり専門支援センターでは、ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師等の資格を有する者)を3名配置し、ひきこもりに関する相談支援を行っている。相談方法は、主に電話相談、来所相談、訪問など適宜必要な支援を実施している。

電話相談は、月曜日～金曜日(祝日、年末年始、慰霊の日を除く)の10時～12時、13時～16時受付。来所相談は予約制となっている。

イ 相談件数(延べ数)

相談延べ件数は、電話相談 1,902 件、来所相談 282 件、メール・文書の送付(手紙を送る等)41 件、訪問支援 47 件、延べ総数は 2,287 件であった。前年度の相談延べ件数(2,018 件)より増加。家族への対応(1,461 件)が、本人への対応(373 件)の3倍以上であった。訪問支援は、家庭訪問や同行支援(本人と関係機関の見学、家族と地域ひきこもり親の会への参加等)であった。

R1 年度相談対応件数

支援方法	相談者内訳				延総数
	本人	家族	関係機関	その他	
電話	279	1,205	304	114	1,902
来所	49	214	7	12	282
訪問	29	21	4	3	57
会議	0	2	3	0	5
メール・手紙等	16	19	3	3	41
延総数	373	1,461	321	132	2,287

ウ ひきこもり新規相談対象者の概要

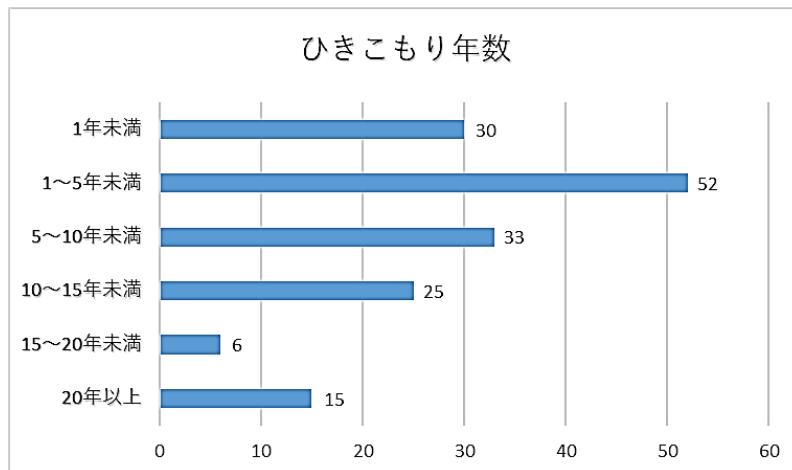
新規相談の実人員は 208 人。そのうち男性は 160 人(76.9%)、女性は 46 人(22.1%)で対象者は男性が多かった。年代別では 10 代 27 人(12.9%)、20 代 49 人(23.5%)、30 代 56 人(26.9%)、40 代 44 人(19.7%)と、対象者は 20～30 代の割合が多くなっていた。

相談実人員

	10 歳未満	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	不明	総数
男性	3	17	33	51	33	16	4	3	160
女性	0	10	16	5	11	2	1	1	46
不明	0	0	0	0	0	0	0	2	2
総数	3	27	49	56	44	18	5	6	208

エ 新規相談対象者のひきこもり年数

新規相談対象者 208 人中、ひきこもり状態である年数が把握できたケースは 161 人であった。それ以外の 47 人は、ひきこもり年数不明あるいは、ひきこもり以外(施設に入れたい・発達障害・病気について等)の相談である。1～5 年未満が 52 人(25.0%)と最も多く、次いで 5～10 年未満が 33 人(15.9%)であった。10 年以上にわたる長期ひきこもり者は 46 人で、全体の 22.1%に上っている。



オ 処遇

前年度からの継続支援ケースを合わせた、今年度の支援実数は 315 人。

そのうち、令和元年度中に支援終了したケースは 185 人。支援終了の内訳は、助言終了 115 人、関係機関にて支援 16 人、就労等のため支援終了 8 人、中断 46 人であった。次年度へ支援を継続するケースは 130 人で、内訳は面接や家族教室で支援するケースは 115 人、当センターデイケアと連携支援 3 人、関係機関と連携支援 12 人となった。

新規のひきこもり相談対象者 208 名のうち、本人と面談することができたのは 17 人だった。

処遇	内訳	支援実数	計
終結	助言終了	115	185
	関係機関にて支援	16	
	就労等	8	
	中断	46	
継続支援	面接・家族教室参加	115	130
	デイケアと連携	3	
	関係機関と連携	12	

(2) 受理会議

目的:継続支援の可否や支援方針の決定

日時:毎週金曜日(8:45~10:00)、その他適宜

出席者:相談指導班長(保健師)、ひきこもり支援担当職員(保健師、心理士)、
ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師)

(3) ひきこもり支援機関事例検討会

事例を通し、関係機関職員の相談技術の向上を図るとともに、適切な支援方法について検討し、関係機関との連携を強化する。

開催日	参加機関	参加人数	事例数
5月22日	子ども若者未来相談プラザ sorae 保健所	2機関4人	1
6月17日	アソシア社会大学	1機関3人	1
6月20日	市町村担当課、サポートセンター	2機関2人	1
6月25日	子ども若者未来相談プラザ sorae 保健所	2機関4人	1
9月3日	保健所、市町村担当課 地域包括支援センター パーソナルサポートセンター	4機関9人	1
9月9日	アソシア社会大学	1機関3人	1
1月20日	アソシア社会大学 ひきこもり支援センター	1機関3人	2
3月12日	医療機関、保健所	2機関4人	1
延べ数		15機関32人	9事例

(4) ひきこもり支援地域連絡協議会

ひきこもりの状態にある本人及び家族を孤立させることなく、住み慣れた地域の既存の社会資源(医療、保健、福祉、教育、就労等の関係機関)が連携し、適切な支援ができるよう、連絡協議会を設置する。

地区	日程	会場	内容	参加機関	参加人数
宮古	11月1日	宮古合同庁舎	ひきこもりの支援について厚生労働省資料紹介 「ひきこもりの理解と対応」/当センター心理士 「本人のニーズをどうくみ取るか」/一般社団法人アトリエみらい 代表理事 東 邦治	市町村担当課、就労支援機関、相談支援事業所、民生・児童委員、社会福祉協議会、NPO法人、保健所、福祉事務所	19機関 35人
八重山	12月23日	八重山合同庁舎	ひきこもり支援について厚労省内閣府資料紹介 「ひきこもり支援者としての心構え」 琉球大学 准教授 草野 智洋	市町村担当課、青少年センター、就労支援機関、相談支援・福祉サービス事業所、社会福祉協議会、保健所、福祉事務所	10機関 19人
北部	2月14日	北部合同庁舎	「ひきこもりの家族支援～CRAFTの活用～」 宮崎大学 准教授 境 泉洋 事例検討	市町村担当課、相談支援機関、障害者支援機関、社会福祉協議会、パーソナルサポートセンター、家族会、保健所、福祉事務所	22機関 63人

(5) ひきこもり支援者研修会 (再掲)

目的：ひきこもりケースのアセスメントをテーマとし、支援者が包括的な視点を持ってアセスメントすることで、ご家族やご本人にとって必要な支援を提供できるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもりの支援に従事する関係機関

開催日	内容	参加者
R1年8月9日 10:00~16:30	講演：「ひきこもりケースのアセスメントと支援」 講師：大正大学教授 精神科医 近藤 直司	92 機関 126 人

(6) ひきこもり家族教室(再掲)

目的：家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもり専門支援センターで支援している家族

開催日	内容	参加家族
第1回 5月15日	① 講話「ひきこもりとは」 講師：心理士 ② ワーク「望ましい行動を増やす」	14 家族 19 人
第2回 7月17日	① 講話「ひきこもりの長期化とこころの病気」 講師：所長 ② ワーク「ポジティブなコミュニケーションスキル」	26 家族 34 人
第3回 11月21日	講話「ひきこもり経験者の体験談」	29 家族 40 人
第4回 1月16日	講話「家族の体験談」	33 家族 41 人
	延べ数	102 家族 134 人

(7) ひきこもり家族向け講演会(再掲)

目的：家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、当事者（当センターを利用している方を中心に募集）

開催日	テーマ	参加家族
第1回 9月21日	「ひきこもりの子を持つ親」である私が豊かな人生を生きるために 講師：琉球大学 准教授 草野 智洋氏	45人
第2回 2月15日	本人と共に生きていくために家族ができることとは？ 講師：宮崎大学 准教授 境 泉洋氏	32人
	延べ数	77人

(8) 普及啓発

- ア ひきこもり専門支援センター通信作成（関係機関 346 か所に送付）
 イ 県ホームページ、新聞広告欄、県広報紙に掲載
 ウ マスコミ等による情報発信

(9) 研修・交流会参加

月日	内 容	場 所	主 催
7月12日	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 第1回研究協議会	横浜市青少年センター	ひきこもり地域支援 センター全国連絡協 議会
10月12日 ～13日	KHJ全国大会	北海道立道民活動セン ター「かでる2・7」	KHJ全国ひきこも り家族会連合会
11月25日 ～26日	令和元年度 子供・若者育成支援のための地域 連携推進事業 中央研修大会	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	内閣府
12月9日 ～11日	子ども・若者総合相談センター機能高度化のた めの会合	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	内閣府
2月3日	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 令和元年度第2回研究協議会	神戸国際会館セミ ナーハウス9階大会 場	ひきこもり地域支援 センター全国連絡協 議会

(10) 講師等派遣（再掲）

日付	内容	参加者数	主催	対象	派遣職員
7月1日	ひきこもりの理解と支援	約50人	糸満市民生委員児 童委員連絡協議会	民生委員・児童委 員	園田陽子
7月23日	「生活困窮」と「ひきこも り」の各専門職からみた支 援のありかたについて	65人	沖縄県就職・生活 支援パーソナルサ ポートセンター	生活困窮に係る 行政・自立支援機 関担当者	園田陽子
8月7日	ひきこもりの理解と支援	約30人	中城村民生委員児 童委員協議会	民生委員・児童委 員	園田陽子
9月6日	ひきこもりの理解と支援 ～中高年のひきこもり～	20人	沖縄県社会福祉協 議会	福祉事務所等の 就労支援員	園田陽子
9月24日	ひきこもりの現状と対応	約20人	沖縄いのちの電話 事務局	いのちの電話相 談員	園田陽子
2月22日	ひきこもりとソーシャル ワーク～その実像から『ひ きこもり』にとらわれない 支援を考える～	200人	沖縄県ソーシャル ワーカー協議会	協議会員・社会福 祉従事者・一般県 民等	園田陽子
2月27日	ひきこもりの理解と対応 ～本人・家族支援に必要な 視点～	40人	宮古保健所	ひきこもりに関 わる支援者	園田陽子